

## ファクトシート

### 緊急時の対応

差し迫ったミサイル脅威に備える

#### 準備

- 非常時サプライキットをつくる（ファクトシート 1 参照）
- 家族非常時プランをつくる（ファクトシート 2 参照）
- 自宅・学校・職場の近くでコンクリートシェルターとして使える施設をリストアップ
  - 放射性降下物に対する防護のために特にシェルターを建設する必要はない。放射性降下物粒子による放射線を吸収できる（コンクリートなどの）十分な厚さと密度の壁と屋根があれば、防護された空間になる。

#### 緊急時

- 公的情報を聞き、緊急対応要員の指示に従う。脅威について知っていることに基づき、物陰への避難や、特定場所への移動や、特定地域からの退避を指示される。（ファクトシート 1 参照）
- 攻撃警報が発令されたら、直ちに、可能ならコンクリート建造物価値化に避難し、次の指示があるまで、そこにとどまる。
- 屋外の放射性物質を避けるために、最も近い建物、できればコンクリートかレンガの建物を見つけて、中に入る。
- 対象地域にいる人は、家族と離れ離れになっても、最も安全な建物内にとどまる。それで生存できる可能性が高まる。
- 当局からの指示がない限り、最低 24 時間は建物内にとどまる。

#### 屋外で攻撃を受けたら

- 閃光や火球を見ない。失明の恐れがある。
- 防護手段になりそうな桃の背後に隠れる。
- 地面に伏せて、頭を守る。爆発地点が遠ければ、爆風は 30 秒以上たってから到達する。
- 攻撃を受けた爆心から何マイルも離れていても、ただちに避難する。放射性降下物は風で何マイルも運ばれる。防護には距離・遮蔽・時間という 3 要素がある。
- 爆風のとき、あるいはその後に屋外にいたなら、体に付着した可能性のある放射性物質を、迅速に払い落とす。
- 放射性物質拡散を防ぐため、服を脱ぐ。上着を脱ぐだけで、放射性物質の 90%を除去できる。
- できるなら、脱いだ服をビニール袋に入れて、密封する。ビニール袋を人や動物から遠ざけて、放射線被曝の影響を防ぐ。
- できるときにシャワーを浴びて、石鹸と水で放射性物質を洗い流す。皮膚をこすったり、傷つけたりしない。
- シャンプーや石鹸や水で髪を洗う。放射性物質を髪に固定してしまうので、ヘアコンディショナーは使わない。
- ゆっくりと鼻をかみ、まぶたやまつ毛をきれいな濡れた布で拭く。ゆっくりと耳を拭く。
- シャワーを使えないなら、ティッシュやきれいで濡れた布で、衣服で覆われていない部分を拭く。

#### 攻撃後

- 何をすべきか・どこへ行き、どこを避けるべきか、公的情報を聞き続ける。
- 危険地帯や放射能汚染標識のある場所に近づかない。放射線は見た目や臭いでは感知できない。

## 覚えておくこと

**距離**：放射し降下物粒子との距離をとる。多層ビルの中層階が理想的。平坦な屋根には放射性降下物粒子が集積するので、最上階は良くない。隣接する建物の屋根に近い階もよくない。

**遮蔽**：重く高密度の物質、厚い壁やコンクリートやレンガや本や土などで遮蔽する。時間があれば、ビニールシートを準備キットから探して、ドアや窓や換気口を覆って、放射性降下物粒子が屋内に侵入するのを防ぐ。

**時間**：放射性降下物の放射線は急速に減衰するので、屋外に出られるようになる。放射性降下物は最初の二週間は人体にとっても危険である。二週間後には放射線強度は最初の1%程度に減衰する。

**覚えておくこと**：たとえ一時的でも、いかなる防護手段も、しないよりは効果がある。遮蔽・距離・時間をとれるほど良い。車を運転していたら、車を路側に止めて、最も近いコンクリートシェルターに向かう。

## 子供が学校やデイケアにいたら？

### 学校教職員は緊急事態対応の訓練を受けている

教職員は詳細な計画を持ち、緊急事態の前・途中・後にそれを実行する。教職員は異なる種類の危機に生徒とともに対処する訓練を受けている。教師は校内の冷静さを保ち、組織を維持する。

### 学校の校舎は安全である

学校は堅牢に建てられ、建築基準に従っている。法規制当局は学校を定期的に巡回し、安全性を確認している。学校は安全なので、地域の避難所として、よく使われている。

### ニュースを聞く。学校に電話を掛けない

学校に電話すると、学校の緊急時対応を妨げ、当局と学校の直接連絡を妨げることになる。ラジオやニュースや、Twitter や Facebook などのオンラインで情報を得る。最新譲歩は統合情報センターから提供される。

### 子供を迎えに行くよう指示が出るまで待つ

子供を迎えに行かない。子供と皆さんは道路を離れ安全な場所にとどまる必要がある。路上にいるより学校煮る方が安全である。警報解除まで学校にとどまることが子供には最も安全である。警報解除されたら、指示に従い子供を学校に迎えに行く。学校には誰が子供を引き取るか特定する緊急事態カードがある。緊急事態カードに登録されていない人物を迎えに行かせない。学校教職員は子供を渡さない。

### 子供に質問されたら

質問には正しく答え、状況を家族で話して、家族の誰もが、起きている事態に対処できるようにする。

Call (671) 475-9600/478-0208/0209/10.

グアム国土安全保障ページ ([www.ghs.guam.gov](http://www.ghs.guam.gov)) から統合情報センターFacebook にアクセスできる。

最新情報を得るには、[twitter.com/ghsocd](https://twitter.com/ghsocd) をフォロー